

指 定 理 由 書

名 称 ・ 員 数	三筋壺と伊勢型鍋（三筋壺 1 点、伊勢型鍋 1 点）
法 量	三筋壺（口径 11.4cm、高さ 25.8cm） 伊勢型鍋（推定口径 24.0cm）
所 有 者	平塚市（平塚市教育委員会所蔵）
所 在 地	平塚市浅間町 9 番 1 号
種 別	平塚市文化財保護条例第 2 条第 1 項に基づく有形文化財（考古資料）

資料は、北金目塚越遺跡から出土した三筋壺 1 点、伊勢型鍋 1 点である。

出土地は、平塚市北金目字小道で調査された真田・北金目遺跡群 13 区である。13 号土坑内の底近くから、三筋壺の口に半分に割れた伊勢型鍋が蓋をするようにかぶせられ、横倒しになった状態で発見されている。土坑の深さが約 1m と深く、その底近くからの出土という点から、埋められた当時の様子をとどめていると考えられ、一体での埋納行為と位置付けられる。土坑内への埋納行為は、資料の年代観から鎌倉時代前期の所産と想定される。

三筋壺は、常滑製の胴部に三つの条線が巡る完存品で、平安時代末～鎌倉時代初期の所産と捉えられる。三筋壺の多くが経塚や墓地から出土することから、経筒や経筒外容器、あるいは蔵骨器として用いられたと考えられている。当該資料は、壺の内部に人骨が見られないことから、えな壺や経筒又は経筒外容器として用いられたと考えられる。一部釉薬が剥がれ落ちる部分があるものの、完存する初期の常滑製品として考古資料としても美術工芸品としても価値あるものと評価できる。

伊勢型鍋は、伊勢地方を中心に分布する丸底の土製鍋である。口縁部が折り返され胴部がやや球形であるといった特徴が見てとれ、鎌倉時代前期の所産と捉えられる。当該資料は、三筋壺との共伴関係から、祭祀的用途に供されたものと考えられる。

これらのことから、当該資料は、鎌倉時代の平塚での地域的・歴史的文化を窺い知ることのできる貴重な資料と位置付けられる。

参考文献

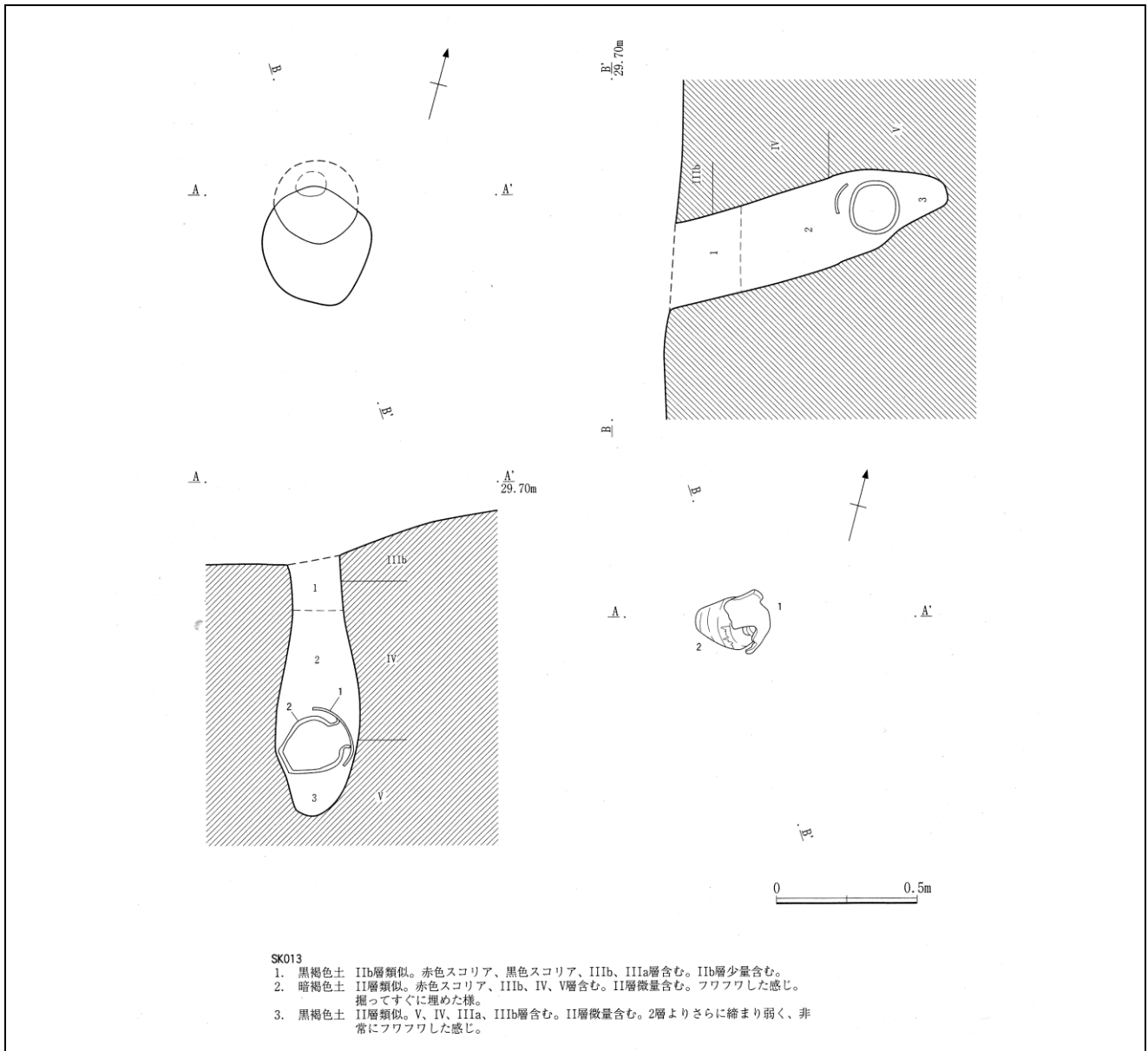
愛知県史編さん委員会編 2012『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県

中野晴久 2013『中世常滑窯の研究』

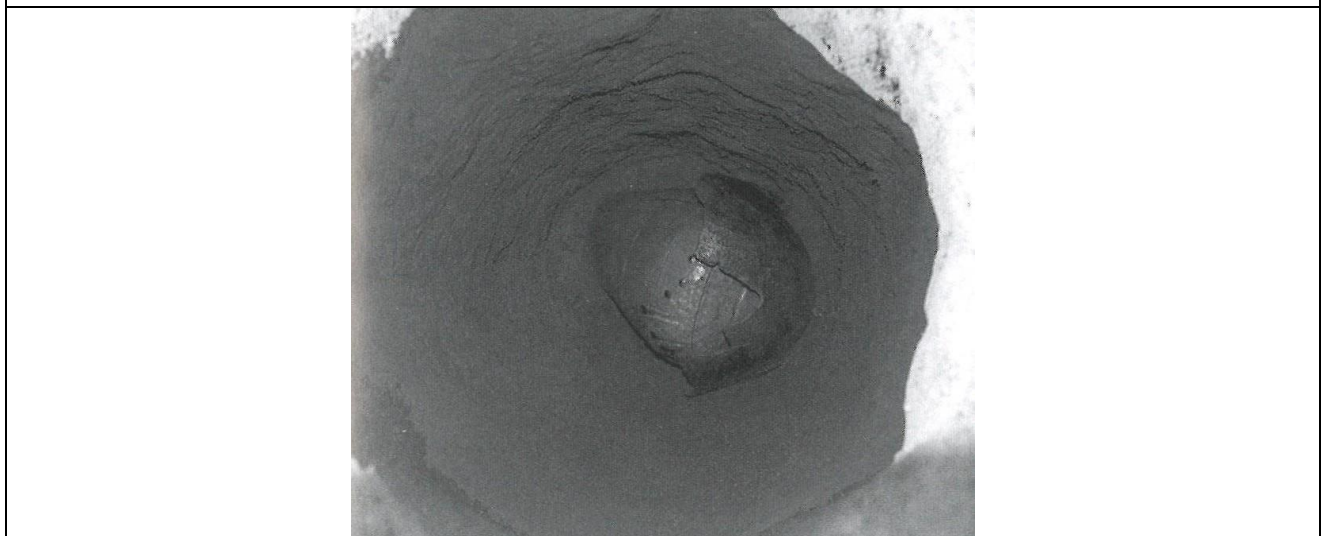
平塚市真田・北金目遺跡調査会編 2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書 3 第 2 分冊』都市基盤整備公団

平塚市博物館 2002『平塚市考古資料 50 選』

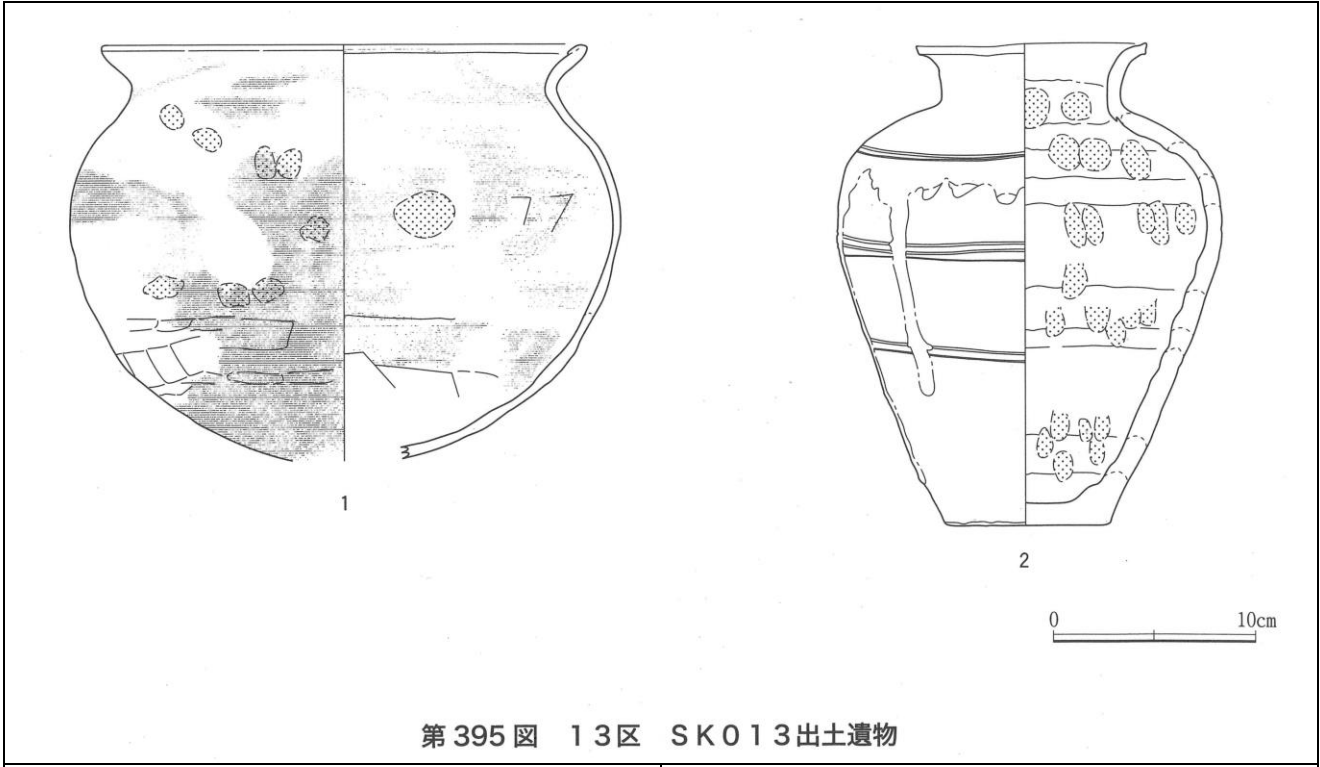
平塚市博物館・平塚市社会教育課 2013『平成 25 年度夏期特別展／平塚市文化財展 真田・北金目遺跡群』



遺構平・断面図



出土状況写真



第 395 図 13 区 SK013 出土遺物

伊勢型鍋実測図

三筋壺実測図

平塚市真田・北金目遺跡調査会編 2003



伊勢型鍋と三筋壺出土状況の再現 (平塚市博物館 2002)